ＩＣＴ利活用による生活等の危険性について

金山　茂雄
Shigeo KANAYAMA
拓殖大学商学部
（拓殖大学経営経理研究所）
Faculty of Commerce , Takushoku University
(The Business Research Institute Takushoku University)
Email: skanaya@ner.takushoku-u.ac.jp

あらまし：ICT 利活用、つまり情報活用能力を使うことである。この中には基礎力（コアと５つの基礎力）が含まれている。さらに５つの基礎力が社会人に求められる能力として位置づけられている。この研究は、今年度第２回研究会において発表しその続きと位置づけ、前回までの研究報告等の産業社会教育にも一歩踏み込んで、一つ目はその情報に対する実態調査を行った結果を別の視点から客観的に評価、検証する。二つ目は、社会にとって ICT は重要なインフラであり、個人にとっても同じである。科学技術の進歩の象徴であるインターネットが世の中に普及し、PC 利用と共に今も増加している。今日、PC 利用から携帯電話利用へ移行し、スマートフォンの使用がほとんどである。本研究報告は新たにインターネットの普及が何をもたらしたのか、インターネットの存在が生活にどのように影響しているのか。今回実施した予備調査から、傾向を推察し、仮説を上げ、これらについて、検討・整理、分析を行い、考察した内容を報告する。
キーワード：学習者特性・行動分析　　連携型 MOT・産業教育　　ネット依存

１．はじめに

ＩＣＴ利活用、つまり情報活用能力を使うことである。その情報活用能力とは「収集、文責、整理・保管、表現、運用」である。この中には、基礎力（コアと５つの基礎力）が含まれている。さらに基盤力とは、「論理」と「数理」の力及び「ICT 基礎知識」のことである。この基盤力がコアで、「情報活用力」「ビジネスフレームワーク」「モチベーション」「コミュニケーション」が「５つの基礎力」として社会人に求められる能力として位置づけられている。この研究は 2019 年度第２回研究会において発表した。2017 年度の全国大会において発表した先行研究の「数理的処理や経営学などの研究で医療の人材育成、評価等」を参考に、研究会における前回までの研究報告の産業社会教育にも一歩踏み込んで検討、考察している。一つ目はその情報に対する実態調査を行った結果を別の視点から客観的に評価、検証する。二つ目は、社会にとって ICT は重要なインフラであり、個人に対しても同じである。科学技術の進歩は、新しい社会の創造を成し遂げた。その象徴であるインターネットが世界に普及し、

PC → 後の携帯電話 → スマートフォン

へ、変化している。本研究報告は新たに技術のインターネットの普及が何をもたらしたのか、インターネットの存在が生活にどのように影響しているのか。今回実施した予備調査から、傾向を推察し、仮説を上げ、これらについて、検討・整理、分析を行い、考察した内容を報告する。

２．インターネット依存調査と結果等

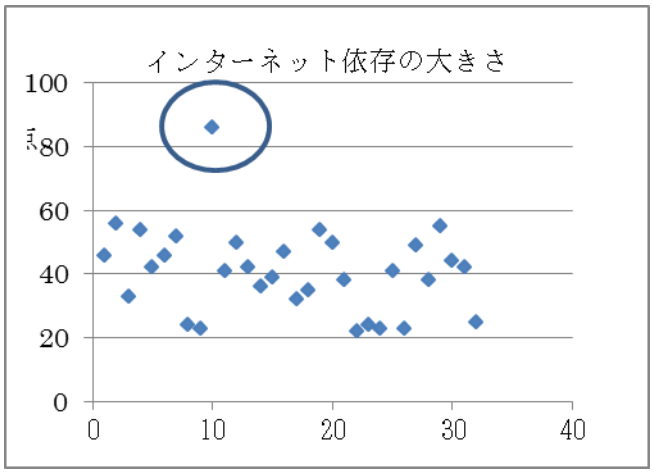
調査内容は「インターネット依存のチェック」として「インターネット依存の大きさ・生活への影響等のチェック 20 項目について「５段階」で答えてもらった。「全くない：１点、時々ある：３点、いつもある：５点」などの、質問項目・内容である。内容の一部は、

・インターネットで新しい仲間をつくることがありますか。→
・インターネットのために、仕事の能率や成果が下がったことがありますか。→
・睡眠時間を削って、深夜までインターネットをすることがありますか。→
・インターネットをする時間を減らそうとしても、できないことがありますか→
・インターネットをしている時間の長さを隠そうとすることがありますか。→

（残りの質問項目は、省略する）

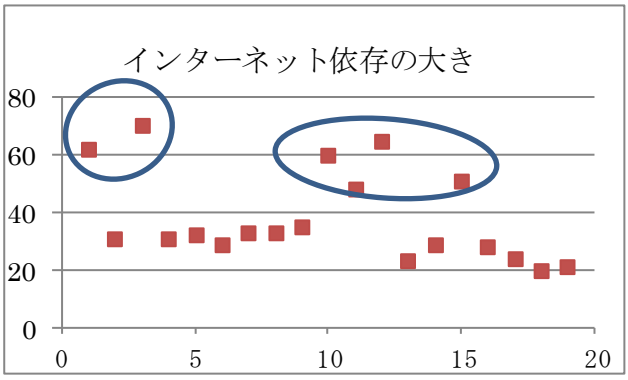
調査結果から、現代人は「平均的にオンラインを主としたオンラインユーザーである」、しかしそうでもない者いる。そうではない者は少数ではあるがインターネットが生活に重大な影響を与えていると考えている。

図１．インターネット依存チェック１



注）インターネット依存の調査結果の一部である。

図２．インターネット依存チェック２

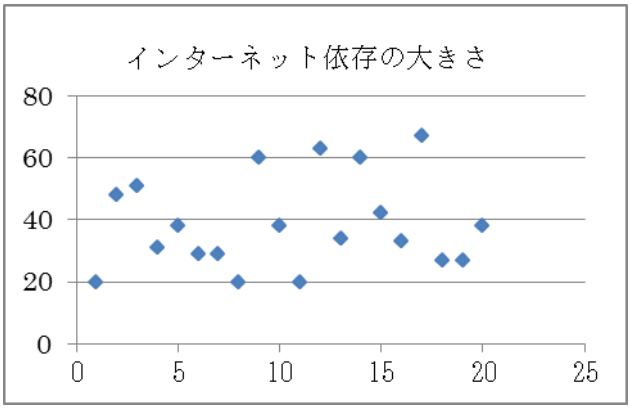


注）インターネット依存の調査結果の一部である。

今回、「インターネット依存のチェック」の実施は、インターネットの普及率の増加と世帯への PC 導入や携帯電話のインターネット機能の利用など、以前から問題視していた「依存症」への懸念である。また、新聞や TV ニュースなど、インターネット上のゲームアプリの利用、コミュニケーションに過度にのめり込んで、依存傾向にないのか、把握するためである。これらは、新聞と TV 等では深刻な問題としており、また社会的な問題に発展する可能性もある。そのための調査でもある。このインターネット依存度高いと、生活のリズムが変化し、例えば、健康、精神、学業、対人関係、そして家族・家庭で影響が出てくるのである。健康では、「視力低下、頭痛、遅刻、学習意欲低下、成績が落ちる」「眠れなくなる、切れやすい、すぐ怒る（怒りぽい）、けんかする」など、である。」

図３．では、３分の１は、依存度が高い、も。残りの３分の２は、「特に異常のあるオンラインユーザー」ではない。つまり、インターネットを主とした生活等ではないことが分かる。

図３．インターネット依存チェック２



注）インターネット依存の調査結果の一部である。

３．今後の課題について

今回初めてインターネット依存関係の調査を実施した。結果から、思ったより依存度が高く・大きくなかった。しかし、生活の一部であると把握・認識できる。さらに、今後も調査を実施し、詳細な整理・検討、考察を試みたい。

《参考文献》

（１）窪田，金山：”社会環境の変化と情報教育の対行動意識”平成 19 年度情報教育研究集会論文集，大阪大学（2007）.

（２）窪田，金山：”情報教育と学部専門科目群との連携強化”，平成 18 年度情報教育研究集会論文集，広島大学（2006）.

（７）読売新聞社：”厚生労働省調査”，読売新聞社，p. 20，2007 年.

（８）窪田，金山：”情報処理能力育成と教育の質保証との関係”，教育システム情報学会全国大会（2011）.